

念ずれば花ひらく

荒尾市立荒尾第三中学校便り
令和3年4月12日(月)
第1号 文責:森川 孝巳

本校は創立75年目の伝統ある学校です。校訓「自主 創造 協力」には、自主・自立の精神を培うとともにスクールプライド「好きです 三中」にもあるように、三中生であることに誇りをもち、日々、認め、励まし、支え合いながら、ともに伸びゆく学校をめざそうという創立当時の思いが込められています。

校訓
自主 創造 協力

この素晴らしい校訓のもと、今年度の学校教育目標を次のようにしました。

令和3年度 学校教育目標

「自立型人間の育成」

～本気の教育でなければ子どもは育たない～

自立型人間とは、社会的自立の基礎を身につけるとともに、夢や目標をもち、その実現に向けて具体的方法を考え、粘り強く努力し、最後までやりきる習慣を身につけた人のことです。中学生期は一番成長する時期であり、自分を変えていくことができる大切な時期です。自立型人間になるために、学校と家庭での生活の中で常に意識してほしいことは

- ①夢や目標に向かって挑戦し続けること「夢叶うまで挑戦！」
- ②三中に誇りをもち、友達を大切にすること「好きです 三中」「命を大事に人を大事に」
- ③自ら学び、ともに高め合える人になること「自ら学ぶ習慣を」の三点です。

このことをしっかりと心に刻み、自分や友達のよさをたくさん見つけ、友達や先生方とともに、充実した楽しい中学校生活を送ってください。そして、「みんなと出逢い、一緒に学ぶことができて本当によかった」と思えるような学校をみんなで作っていきましょう。

また、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしっかりと行いながらの教育活動になりますが、保護者の皆さまのご協力を得ながら、「安全・安心な学校」「温かみと潤いのある学校」「保護者や地域から信頼される学校」「生徒一人一人に心の居場所のある学校」づくりをめざしていきますので、ご理解とご協力を宜しくお願いします。

念ずれば花ひらく

苦しいとき 母がいつも口にしていた このことばを わたしもいつのころからか
となえるようになった そうしてそのたび わたしの花がふしぎと ひとつひとつ
ひらいていった 荒尾市(府本)出身の坂村真民さんの詩

「念ずれば花ひらく」とは、ただ念じていれば思いが叶うという意味ではありません。「こうしたい」「ああしたい」というその思いを叶えるためには、寝ても覚めても思い続けるくらいの強烈な思いで一生懸命努力すれば道がひらけてくるという意味です。自分がやろうとしていることが、どう見ても不可能と思えるようなものであれば「そんなことできるわけがない」と誰もが言います。しかし、そのような声に動かされることなく、「いや、それでも私は何としてもやりたいのだ」という信念を伴った思いが大事です。その上で、「では、どうすればやり抜くことができるか」と具体的な方法を考えていくのです。多くの人が、「こうしたい」と思っても、すぐ「このような難しい条件がある」などできない理由を考え始めます。だから実現しないのです。

人間の思いというのは、我々の想像を超えて、凄まじいパワーを秘めています。何か新しいこと、困難なことに取り組むときほど、「絶対実現させるんだ」という強い思いを持ち続け(念じる)、一生懸命に努力し続けることが大切です。これは、世界共通の成功の法則です。自分を信じて、これからも夢や目標に向かって具体的に努力し続け、一つ一つ目標を達成していったほしいと思います。「夢叶うまで挑戦！」です。

そんな思いで、この学校便りを「念ずれば花ひらく」としました。